

とちぎ  
2007

# 県政のあゆみ

2008年 3月号別冊

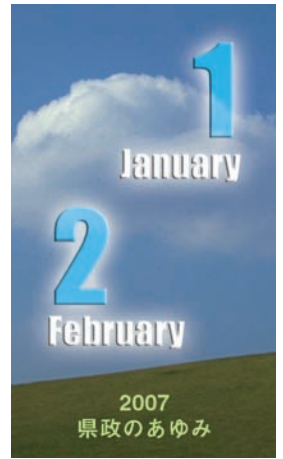
2008年3月1日発行

編集・発行：栃木県広報協会

県のホームページ

<http://www.pref.tochigi.lg.jp/>





## 乳がん検診の受診率向上へ

### 音無美紀子さんが講演

乳がん啓発イベント「とちぎdeピンクリボン」を1月14日にとちぎ健康の森で開催しました。女優の音無さんが乳がんを克服した自らの体験を語ったあと、医師、保健師や乳がん患者会の方も交えたパネルディスカッションを行いました。乳がん経験者やご家族、関心のある方など、約400人が参加。乳がんは早期発見で治る率も高いことなど、知識の普及啓発と検診の受診を呼びかけました。このほか、関係団体による医療機器展示コーナーも設けられ、来場者は熱心に説明を聞いていました。



## ゴルフ場利用者が40万人に

### 県民「ゴルフ場」

県民ゴルフ場（鬼怒グリーンパークゴルフ場）では、2月10日に利用者数40万人を達成しました。40万人目となった人は、埼玉県にお住まいのご夫婦で、ゴルフ場から記念品が贈呈されました。同ゴルフ場は、92年10月にオープンして以来、鬼怒川の河川敷の特徴を生かしたコースとして、高齢者やジュニアゴルファーの利用が多く、健康増進や青少年の健全育成に貢献しています。



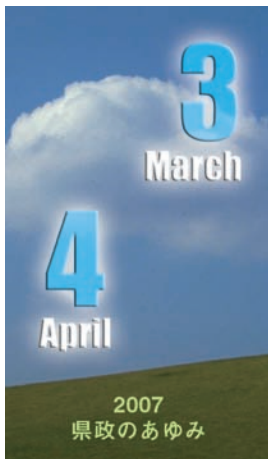
## 「はたけしめじ」を品種登録

### 愛称は「とちぎのこ」

県林業センターでは「香りまつたけ、味しめじ」といわれる「ほんしめじ」の近縁種で、食味に優れ、里山や草地などに自生する「はたけしめじ」の人工栽培技術の開発と品種の育成に取り組み、3月22日に2品種を品種登録しました。また、樹木のせん定枝葉を堆肥化した資材を栽培に利用する技術も開発し、特許出願しました。さらに、この有望な新規栽培きのこの消費拡大に活用するため、全国から愛称を募集し、3000通を超える応募の中から「とちぎのこ」と決定しました。







### 都市計画道路樋ノ口河合線開通

都市計画道路樋ノ口河合線が3月28日に開通しました。同路線は、栃木市中心部と小山市を結ぶ幹線道路であり、かつ、交通結節点である栃木駅へのアクセス道路です。今回の開通により、栃木駅周辺地区での円滑で安全・安心な通行の確保はもとより、交流連携の拡大や物流の効率化、産業の振興を支援します。また、栃木駅周辺連続立体交差事業や栃木駅前・駅南土地区画整理事業と相まって、良好な市街地を形成し、中心市街地の活性化に寄与することが期待されています。

安全で安心な通行を確保



### 「とちぎ」の元気づくり

団塊の世代の豊富な知識や経験などを活かし、退職後も元気に活躍していただくことや、東京圏の団塊の世代を本県に呼び込み、二地域居住などにより交流を深めていただくことは、元気で活力ある「とちぎ」づくりを進める上で大変重要であることから、07年度から推進本部を立ち上げ、県庁全体で総合的に団塊世代対策に取り組んでいます。同対策は、「県内在住の団塊の世代の能力を活かす」取組と「東京圏などに在住する団塊の世代を呼び込む」取組の二本柱です。

団塊世代対策を推進



### 南那須養護学校には高等部

本県初の県立中高一貫教育校として、宇都宮東高等学校附属中学校が4月に開校し、一期生105人(男子53人、女子52人)が入学しました。宇都宮東高中高一貫教育校では、科学的な見方や考え方の育成や教養を深める学習を行うなど、特色ある教育活動を計画的・継続的に行い、創造力やリーダーシップに富んだ人材の育成をめざします。また、那須烏山市にある県立南那須養護学校に高等部を開設し、1年生19人が入学しました。生徒たちは新校舎で自立や社会参加を目指して学習に励んでいます。

県立中高一貫教育校が開校



## 税収の確保に全県が一枚岩

### 県地方税徴収特別対策室を設置

県と市町が協働して税の徴収を行う組織「栃木県地方税徴収特別対策室」が4月に設置されました。同室は、県職員12人、市町派遣職員26人から成り、所得税から個人住民税への税源移譲をふまえ、市町の徴収技術の向上と、税収入の確保を目的としています。さらに、県と市町とがより緊密な連携をとるため、滞納整理の方針などを協議する「栃木県滞納整理推進機構」も同時に設置されました。その第1回会議では、3年後の市町村税徴収率92・7%達成が目標に掲げられました。



## 県民の期待に応える警察に

### 県民広報相談課が発足

県警察本部は、警察に寄せられるさまざまな相談などに対する的確に対応するため新たに県民広報相談課を新設し、4月1日発足しました。警察に寄せられるさまざまな相談の中には、事件となつて被害者として支援活動が必要な案件も含まれており、警察安全相談から被害者相談までを一貫して対応していく必要性が求められるため、これまでの「広報広聴課」に「犯罪被害者対策室」を移管して体制を強化するとともに、課長以下22人体制で発足しました。



## スマートICを本格的に導入

### 上河内SAと那須高原SA

東北自動車道上河内SA（サービスイリア）と那須高原SAで社会実験が行われていたスマートIC（ETC専用インターチェンジ）が、4月1日6時から24時間運用で本格導入されました。本格導入に際し、地元上河内町（現宇都宮市）・那須町主催でそれぞれ開通セレモニーが行われました。両インターチェンジとも、方向（東京方面）と車種（二輪・軽・普通車）が制限されていますが、今後アクセス道路整備を行い、全方向・全車種対応を目指します。







## 農業の明るい未来に向けて

### 「とちぎ農業未来塾」開校

県は、新たに農業を始めたい人が必要な知識、技術を学べる場として就農準備校「とちぎ農業未来塾」を農業大学校内に開校しました。4月17日の開校式には、知事



が揮毫した看板の除幕が行われ、福田知事は「思い描いた夢の実現に向け、頑張ってください」と第一期となる研修生を激励しました。今年度、意欲ある就農希望者94人が研修を修了し、今後とちぎの農業の明るい未来を拓く担い手としての活躍が期待されています。

4月21日から6月3日まで、県立博物館で開館25周年記念特別企画展「慈覚大師 円仁とその名宝」展を開催しました。円仁(794～854)は、天台宗を大成し、第3代天台座主にもついた郷土が誇る偉人です。この企画展では、国宝「慈覚大師画像」(兵庫・一乗寺)や、門外不出の重要文化財「慈覚大師 頭部像」(山形・立石寺)など多数の貴重な仏教美術が展示され、会期中約3万3000人の入館者があり、好評を博しました。県立博物館では、今後このような「栃木」について新たな魅力を発見する企画展を開催していく予定です。

## お帰りなさい ふるさとへ

### 「慈覚大師 円仁とその名宝」展



「慈覚大師画像(複製)」  
(原資料：兵庫・一乗寺蔵)



## 「とちぎ和牛」アメリカへ

### 高級レストランで好評

対米向けに「とちぎ和牛」の輸出が開始されました。和牛の輸出は、鹿児島県、宮崎県、群馬県に続いて4県目。5月17日には、JAおやま西部地区青果物集出荷場で輸出に向けた出発式が実施されました。出荷された「とちぎ和牛」は、出荷6頭全頭が対米向けの基準であるA4以上に格付けされ、サーロインやヒレなどの高級部位が輸出されました。その後も、毎月継続的に輸出され、主にラスベガスの高級ホテルのレストランで提供され、高い評価を得ています。



## 鍛錬と努力の成果を披露

### 高齢者の祭典ねんりんピック

今年も、とちぎ健康の森や宇都宮市内の競技施設などを会場として、5月25と26日に「健康・生きがいフェスティバル」、27日に「スポーツ・文化交流大会」が開催されました。三遊亭好楽さんの記念講演や日本画、洋画などのシルバー作品展、テニスなど18種類の競技大会などさまざまなイベントが行われました。会場では県内各地から参加された元気な高齢者のみなさんが日頃の鍛錬や努力の成果を披露され、地域・世代を超えた交流の場として大いに盛り上がりました。



## 台湾で県産品を大いにPR

### 国際食品見本市に出展

県は、6月21日から24日まで台湾の台北市で開催された国際食品見本市「フード台北」に出展しました。初日には、知事がオープニングセレモニーでテープカットを行った後、本県ブースで、石坂県議会議長らとともに、日本酒、漬物、納豆、ゆばなどの加工食品や米、ブドウなどの農産物を台湾や世界のバイヤーに紹介しました。また、台北滞在中に「とちぎの夕べ」を開催し、台湾の関係者に本県の魅力をPRしました。







## スクール安全活動車を配備

### 子どもの安全確保対策



県警察本部は7月、全国に先駆けて警察スクールサポーターの専用車として、青色回転灯とスピードカーを搭載した「スクール安全活動車」を全警察署に配備しました。青と白のツートンカラーで、県警マスコットの「ルリちゃん」のイラストが描かれた車両は、子どもたちに親しまれています。これまでに実施してきた児童生徒に対する防犯教室・防犯訓練にあわせ、車両を使用した学校周辺での見守り活動や地域の安全パトロール活動により、子どもたちや地域の人たちに安全・安心を与えています。

## 豊かな農村を未来へ継承

### 水田などで「生き物調査」



今年度から、農地・水・環境保全向上対策に取り組んでいる県内の266組織が、7月から8月にかけて、水田などに生息する魚や昆虫などの「生き物調査」を実施しました。こうした取組を通して、参加者たちが身近な環境への関心を高め、環境保全や、集落コミュニティの活性化につながることを期待しています。今後とも良好な自然環境をはじめ、農業生産の基礎となる農地や施設などの地域ぐるみの保全活動を促進し、豊かな農業・農村を未来を担う子どもたちに継承していきます。

## とちぎの元気な森を次世代へ

### 森づくり県民税条例を公布

6月の県議会で「とちぎの元気な森づくり県民税条例」が可決成立され、7月3日に公布しました。県はこの税により荒廃森林の再生と県民の森づくり活動の支援などを行い、水源のかん養、地球温暖化防止など森林の持つ公益的機能が持続的に発揮される森づくりを進めていきます。また、10月16日には「とちぎの元気な森づくり県民会議」が設立されました。県民会議では、森づくり憲章の制定、県民協働による森づくりの推進、税で実施した事業の評価などを行い、元気な森を次の世代に引き継いでいくための県民運動を展開していきます。





## みんなで結婚・子育てを支援

### とちぎ未来クラブを設立

県民総ぐるみで結婚・子育てを支援し、家庭を築き安心して子どもを生み育てることが出来る環境づくりを推進するため、8月6日に県や経済団体など県内各界の関係団体で構成される「とちぎ未来クラブ」が設立されました。結婚

支援事業は、出会いの場となるイベントを実施したり、結婚サポートによる結婚相談などを行っています。また、子育て支援事業は、子育て家庭に「とちぎ笑顔つぎぎカード」を配布し、そのカードを協賛店舗などで提示することで割引などの特典が受けられるもので、1500以上の店舗などに協賛いただいています。



## 難病に理解をとシンポジウム

### なんびょうサポートとちぎのつどい

「第4回なんびょうサポートとちぎのつどい」を9月9日にとちぎ福祉プラザで開催しました。このつどいでは、県民の難病に対する理解を深め、相互理解のきっかけの場となるよう、網膜色素変性症という難病を抱えた音楽家による「夢見る力を信じて〜盲導犬グレースとともに〜」と題した講演と、ピアノの弾き語りが行われ、多くの参加者が熱心に耳を傾けていました。また、シンポジウムでは、「治療の進歩と生活」をテーマに、熱心な討論が行われました。







## 100歳の木村さんに祝詞

### 知事が長寿を祝い訪問

福田知事は、100歳を迎えた鹿沼市の木村ミツさんを9月21日に訪問し、祝辞と記念品を贈り、長寿を祝いました。明治4年生まれの木村さんは、新聞やテレビで世の中の動きに興味関心を持ち続け、「お相撲をテレビで見るのが一番の楽しみです」と、笑顔がとても印象的でした。なお、今年度内に県内で100歳になる方は207人で、過去最高の人数です。



## 人権の大切さを学ぼう

### ヒューマンフェスタとちぎ

人権問題についての多彩な催しを通じて人権の大切さを学ぶ「ヒューマンフェスタとちぎ2007」を9月29日と30日の2日間、マロニエプラザ（宇都宮市）で開催しました。保育園児の元気な和太鼓で幕をあげ、俳優の宇梶剛士さんのトークや歌手の井上あずみさんのコンサート、いじめについての講演会、映画会、盲導犬や点字ブロックなどの体験、高校生が大切に育てた人権の花の配布などたくさんイベントを行いました。来場した多くの人たちから「人権をより身近なものとして考えることができ、行動に移すきっかけになった」との声をいただきました。

## 栃木の農産物をもっとおいしく安全に

### GAP（農業生産工程管理）の導入が始まる

安全・安心で、品質の良い農産物を求める消費者の声に応えるため、農業の生産現場で新たな取り組みであるGAPの導入が始まっています。GAPとは、Good Agricultural Practicesの略称で「農業生産工程管理」と呼ばれ、安全性、品質の向上、環境負荷軽減などを目的とした適切な農業生産工程を予め定め、その実践と評価に基づき、改善する取り組みです。県内では、いちご（県内全産地）、トマト、なし、ほうれんそう、麦（県内全産地）などの産地でGAPの取組が始まっていますが、今後ほかの品目への導入を支援し、安全・安心・高品質な農産物の供給を図ります。





## 第62回国体(秋田県)で好成績

### 天皇杯22位・皇后杯25位

「秋田わか杉国体」が9月29日から10月9日の11日間、秋田市を中心に開催され、本県選手団は、34競技、418人の監督・選手で大会に臨みました。大会を通して

「チーム栃木」の勢いは最後まで衰えることなく、団体競技で12競技17チーム、個人競技では、8競技43人が入賞するなど、冬季大会と合わせ、第62回国民体育大会は、天皇杯22位(前回27位)・皇后杯25位(前回34位)と、2年連続で前回大会を上回る好成績をあげることができました。



## みんなで食育を推進しよう

### とちぎ食育推進大会

「食は私たちの生活に欠かせないものであり、その重要性はますます増えています。このため、「とちぎの食育元気プラン」に基づき、食育にかかわる多くの関係機関や団体と連携・協力し、食育の推進に努めてきました。10月の「とちぎ食育推進月間」では、食に関するさまざまなイベントなどを集中的に行い、食育の普及啓発に努めました。特に、初めて開催した「とちぎ食育推進大会」では、子どもの食育を中心に講演や表彰、事例発表を行い、約700人の参加者が食育についての理解を深めました。今後も、家庭や学校、地域などさまざまな分野で、県民が主役の食育に取り組んでいきます。







## 「地球にやさしいくらし」を

### クリーンアップフェア

地球温暖化などの環境問題の解決に向け、身近でできる取組へのきっかけづくりとして、10月13日、14日の2日間、県子ども総合科学館で「クリーンアップフェア2007」が開催されました。会場では、活動団体や企業などによる展示・体験コーナーや楽しく環境問題について学ぶ「ぶんべつくんシヨール」、ソーラーカーの試乗や「子どもエコクラブ」のメンバーによる活動発表会などが行われました。子どもから大人まで多くの来場者でにぎわい、環境保全の大切さを実感するとともに、日常生活を見直す良い機会となりました。



## おいしいとちぎの食再発見

### とちぎ「食と農」ふれあいフェア

県民の食と農に対する理解を促進するため、県内各地で活発的な「食育」「地産地消」「都市農村交流」の取組を一体的に広くPRする「とちぎ「食と農」ふれあいフェア2007」を10月27日、28日の2

日間にマロニエプラザなどで開催しました。このイベントでは「おいしいとちぎの食再発見」をテーマに、各市町の農産物や加工品、特産品の展示即売、農村文化の紹介のほか、栃木の食材を生かした「とちぎの食deふれあいトーク」や「地産地消の夕べ」を実施し、健全な食生活や農業への理解を深めました。





## 県域を越えた交流・連携

### 両毛交流ウォーキング大会

群馬県と両毛地域の11市町と連携して「第5回両毛交流ウォーキング大会」を10月28日に佐野市で開催しました。両毛地域をはじめ、関東各地から約1000人が参加しました。「味わい深い伝統と芸術を残すまち、佐野を歩こう」をテーマに佐野の名所や旧跡、観光スポットをめぐるとともに、地域内外の交流を深めることができました。両毛地域では、ウォーキング大会のほか、公共施設の相互利用やホームページによる情報発信、民間団体の地域づくり活動支援など、県域をまたがる市町が連携して活力のある地域づくりを進めています。

## 全国の農業担い手が集う

### 農業担い手サミットinとちぎ

「未来を創造!!」担い手が築く強い農業・元気な地域をテーマに10月25・26日、第10回全国農業担い手サミットinとちぎを開催しました（主催は第10回全国農業担い手サミットinとちぎ実行委員会）。認定農業者などの担い手を中心に、県内外から約2500人が参加しました。25日は、宇都宮市文化会館で全体会を行い、栃木市の大出陽子さん（県女性農業士会長）ら3人による事例報告や、パネルディスカッションを行いました。全体会終了後は、県内8地域での交流会や、26日には、19コースでの現地研修を行い、全国の担い手と活発な交流が行われました。



## 県産牛乳の消費拡大めざし

### 統一ロゴマークを発表



本県は、生乳生産量全国第2位の酪農県で、県産の新鮮な牛乳がたくさん販売されていますが、県民の皆さんには意外と知られていません。そこで、県産の新鮮な牛乳をもっと県民の健康作りに役立てていただくため、県産牛乳の統一ロゴマークの公募が行われました。その結果、大田原市在住の小池さんの作品が選ばれ、10月に開催された「とちぎ「食と農」ふれあいフェア」会場で発表されました。このロゴマークがついた県産牛乳は08年2月ころから順次お目見えます。





## 文化・芸術活動の成果を発表

### 県障害者文化祭

11月9日と10日の2日間に行われ、宇都宮市文化会館などで、栃木県障害者文化祭「カルフルとちぎ2007 こころのつどい」が開催されました。当日は、県内各地から障害がある方がたくさん参加し、日頃の文化・芸術活動の成果を発表しました。また、会場を訪れたたくさんの方たちと一緒にイベントに参加するなど、心の交流を深め、県民のみなさまに障害者福祉についての理解を深めていただくことができました。



## 統計功労者などを表彰

### 県統計大会

第45回県統計大会を11月6日、県総合文化センターで開きました。大会では、統計功労者と統計グラフ県コンクール入賞者などの表彰を行い、統計の普及啓発と県内の統計関係者の志気高揚を図るとともに、大会参加者の決意を表す大会宣言が満場の拍手で採択されました。



## 五木寛之さんが記念講演

### とちぎ教育振興大会

11月11日に「とちぎ教育の日」実行委員会主催の「第16回とちぎ教育振興大会」が宇都宮市文化会館で開催されました。県内全域に教育尊重の気運を高め、生涯学習の振興を図る「とちぎ教育の日」は、毎年11月の第2土曜日に設定され、その中心的行事がこの大会です。式典では、教育功績者と今年度のテーマに関するポスターや意見の入賞者の表彰式、続いて五木寛之さんが記念講演を行いました。会場には悪天候の中、2000人が詰めかけ、大盛況でした。





## 飲酒運転の根絶をめざして

### 交通安全シンポジウム

飲酒運転の根絶をテーマにした第27回交通安全シンポジウム（内閣府、県、宇都宮市主催）を県総合文化センターで11月14日に開催しました。県警交通部長の柿岡健三氏と愛国学園大学教授・茨城大学名誉教授の鈴木由紀生氏が基調



報告と基調講演を行い、続いて飲酒運転被害者遺族の和氣みち子さん、F1チーム代表の鈴木亜久里さん、埼玉西濃運輸社長の石井良幸さん、警察庁科学警察研究所の岡村和子さんの4人によるパネルディスカッションを行い、それぞれの立場から飲酒運転への考え方や取組みなどについて意見を交わし、飲酒運転の根絶を訴えました。

## “強み”を活かし産業振興 自動車 航空宇宙産業振興協議会を設立

強みを活かして、特定産業分野の重点的な振興を図る「とちぎ産業振興プロジェクト」の一環として、県では、8月に「とちぎ産業振興プログラム」を策定し、自動車産業と航空宇宙産業を振興分野に選定しました。これを受けて、この分野の産学官ネットワークを形成するため、11月16日に「とちぎ航空宇宙産業振興協議会」、12月17日には「とちぎ自動車産業振興協議会」が設立され、人材育成、研究開発、販路開拓などの活動を展開することとなりました。







## 知名度上げ生産・消費拡大を

### 県産品種ヤシオマスを商標登録

県水産試験場でニジマスを品種改良して開発した「ヤシオマス」の商標が、11月16日に登録されました。ヤシオマスは美しく鮮やかな色合いから、県花である「ヤシオツツジ」にあやかり名付けられ、成熟しないため1年をとおして品質が落ちず、脂のりも良いのが特徴です。刺身、カルパッチョ、ムニエル、くんせいなどいろいろな料理でおいしく召し上がれます。今後は、商標を十分に活用しながらヤシオマスの知名度を上げ、地域特産魚として生産と消費の拡大を図っていきます。



## 優れた企業立地環境をPR

### とちぎ産業インフラツアー

企業立地を促進するため、本県の優れた立地環境をPRする「とちぎ産業インフラツアー」を11月26日に開催しました。セミナーには、県外企業を中心に25社が参加し、副知事による本県の立地環境のプレゼンテーション、北関東自動車道の見学や県が開発を予定している壬生町羽生田地区の大規模産業団地予定地の見学などを行い、最後に知事との意見交換会を行いました。参加者からは、産業団地予定地は平坦で広大、立地環境が素晴らしいなどの声が聞かれました。



## 巴波川霧籠りなど3件を選出

### 県マロニエ建築・景観賞表彰式

県マロニエ建築・景観賞の表彰式を、11月26日に県総合文化センターで行いました。今回は、本賞の建築文化部門に「アルテミス宇都宮クリニック」、人にやさしい建築物部門に「西刑部の家」、景観部門に「巴波川（栃木河岸）」が選ばれました。また、奨励賞に建築物4作品、景観1作品が選ばれました。表彰式終了後には、東京大学アジア生物資源環境研究センター教授の堀繁さんによる、景観に関する記念講演会が行われました。

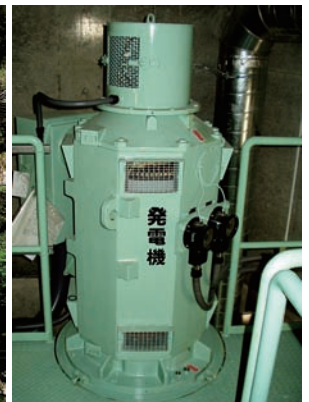




## 被害者支援の輪を広げよう

### 犯罪被害者支援県民のつどい

県警察本部は、社団法人被害者支援センターとちぎと共催した「犯罪被害者支援県民のつどい」を11月28日に県教育会館(宇都宮市)で開催しました。つどいでは、警察などが行う犯罪被害者支援事業報告や警察の犯罪被害者支援体験談の発表、交通事故で家族を失った被害者遺族のメッセージ集の朗読などを行ったあと、松本サリン事件の被害者河野義行さんによる記念講演を行い参加者に犯罪被害者の苦悩や支援の重要性、必要性を訴えました。また、講演のあと、犯罪被害者支援の輪を広げることが誓う宣言が採択されました。



## クリーンエネルギーを供給

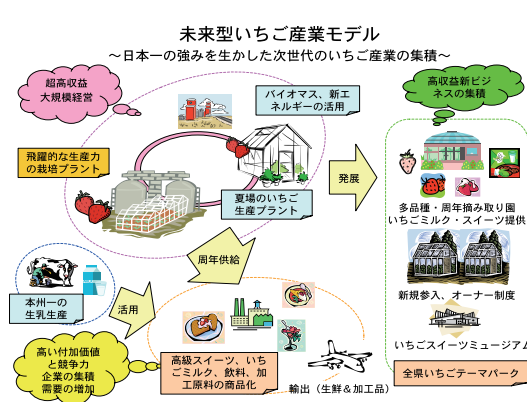
### 県営小網発電所が稼働

県企業局が06年9月から建設を進めてきた県営小網発電所(日光市藤原)が完成し、12月1日に営業運転を開始しました。小網ダムからの河川維持流量を有効利用した最大出力130キロワットの水力発電所で、県の所管する9つの発電所の合計最大出力は6万6300キロワットとなりました。企業局では、今後も二酸化炭素を排出しないクリーンエネルギーを供給する水力発電所の建設と維持管理を行い、環境保全と地域振興に貢献していきます。

## 野菜をテーマに地域産業形成

### 野菜産業クラスター基本構想

本県農業の発展を目指すには、ほかの産業が有する知識や技術、ノウハウ、情報などを生かして、農産物の付加価値の向上や需要の拡大を図ることが必要となります。このため県は「とちぎ野菜産業クラスター基本構想」を11月27日に策定しました。構想では、伸び率全国一の野菜をテーマに、商工サービス業などとの連携を促進し、本県の強みを生かす力強い地域産業群の形成を目指す基本的な考え方を示しています。今後、「未来型いちご産業モデル」など、とちぎ発の新たな産業集積を目指すことにしています。







## 新栃木県庁舎が完成

### 12月に落成式と一般公開

04年10月から建設を進めてきた新栃木県庁舎が完成しました。5代目となる新県庁舎は、議会議事堂（一足先に07年4月から使用開

始済）と行政庁舎の本館と、東館の3棟で構成されています。また、旧本館の一部を移築・改修した「昭和館」も完成しました。12月に落成式と一般公開が行われ、年末に新庁舎への移転作業を実施しました。08年1月4日に開庁式が行われ、新庁舎での業務を開始しました。



### 『百年後のとちぎ』提言を公募

#### 優秀賞7点を表彰

県は「活力と美しさに満ちた郷土」とちぎ」の実現を目指して、百年建築である新県庁舎の完成に合わせ「百年後に残したいもの」「百年間で創り上げたいもの」といった『百年後のとちぎ』に関する提言を募集しました。若者から高齢者の方まで、幅広い世代から151件の応募があり、選考委員会による選考の結果、「誇れる地域・景観を創り上げたい」「環境に配慮したまちづくりを進めたい」といったものなど、7つの提言を優秀賞として決定しました。新県庁舎落成記念イベント・オープニングセレモニーで表彰しました。

	7 県営土地改良事業の換地業務に係わる感謝状贈呈式
	7 とちぎ産業集積懇話会
24	第13回全国棚田(千枚田)サミット(茂木町)(25日まで)
27	政策懇談会
28	福島・茨城・栃木・群馬・新潟の5県知事が会談
28	レッツBuyとちぎ認定商品展示会(29日まで)
29	県民福祉のつどい
30	「映画と講演のつどい」(人権に関する強調月間行事)
9月	2 これからまちづくり大学開校
4	「第64回インターナショナルギフトショー」出展(7日まで)
5	栃木県普及指導活動成果発表会
7	消費者問題を考えるつどい
10	救急医療週間記念大会
10	栃木県公衆衛生大会
13	秋の交通安全運動行事「交通安全の火」分火式
15	県民スポーツ・レクリエーションフェスティバル総合開会式
20	児童虐待に関するシンポジウム
25	「やすらぎの栃木路」新宿駅西口フェア(28日まで)
28	とちぎ家庭教育支援フォーラム(12月6日・2月23日)
30	もくもくまつり2007
30	高校生友好交流団浙江省受入(11月8日まで)
30	第3回栃木県障害者スポーツ大会
10月	1 なすひかり大人気
2	とちぎの食育展(6日まで)
3	韓国マスコミ招へい事業(日光市ほか7日まで)
3	県発明展覧会(5日まで)
5	ベジフルとちぎビジネス交流会の開催
6	酪農フェア2007
6	とちぎインターナショナルフェスティバル2007
6	栃木県技能展(7日まで)
11	外資系企業誘致セミナー(東京都)
11	仕事と家庭の両立支援セミナー
13	とちぎ地産地消フェア(14日まで)

13	とちぎグリーンフェスタ2007(とちぎわんぱく公園・壬生町21日まで)
13	とちぎ花センター開園15周年記念式典
17	県優良木材展示会(鹿沼市などで26日まで)
19	「とちぎ住宅フェア2007」～ひとに・まちに・自然にやさしく～(21日まで)
21	木造りの家ノウハウ習得講座(県南・県北=21日、県央=28日)
26	不法投棄防止のつどい
26	とちぎ企業立地セミナー(東京都)
26	県児童生徒発明工夫展覧会(28日まで)
27	県子ども読書活動推進フォーラム(鹿沼市)
11月	2 自治振興セミナー
3	県民協働の森づくり体験ツアー(鹿沼コース=3日、日光コース=17日、県民の森コース=25日)
3	エコドライブキャンペーン
3	とちぎものづくりフェスタ2007
9	県文化功労者表彰式
9	とちぎ特使と知事が懇談(東京)
10	フェスタinパーティ2007(11日まで)
16	栃木県職業能力開発促進大会
17	エコドライブ講習会
21	県きのこ・わさび展示品評会(22日まで)
22	第7回産業教育フェア(佐野市)(23日まで)
23	「とちぎ心のルネッサンス」運動推進県民大会
26	平成19年度栃木県次世代人材づくり事業海外研修(中国・浙江省で12月1日まで)
27	とちぎ野菜産業クラスター構想策定
29	県森林・林業コンクール表彰式
30	栃木県花の展覧会(12月1日まで)
12月	1 エコライフフォーラム
4	県芸術祭表彰式
10	多重債務者相談ウィーク(15日まで)
14	新栃木県庁舎落成式・内覧会
15	メタボ阻止し隊(運動し隊)結成シンポジウム
15	新栃木県庁舎一般公開



# 2007 県政のあゆみ

1 月	10 農業士等認定式	
	とちぎの元気な森づくりフォーラム（日光市=13日、益子町=14日、矢板市=21日、那須烏山市・鹿沼市=27日、那須塩原市=28日）	
	20 女性の再チャレンジ支援フォーラム	
	21 全国高校総体スケート・アイスホッケー競技大会 本県開催（25日まで）	
	26 バイオマスシンポジウム	
	27 国民体育大会冬季大会スケート・アイスホッケー競技会（本県選手団を群馬県に派遣）（1月31日まで）	
	27 多文化共生シンポジウム	
	30 人権講演会 in 矢板	
	2 月	1 アグリライフフォーラム
		2 エコテックとちの環2007（3日まで）
3 とちぎの元気な森づくりシンポジウム（宇都宮市）		
5 農業青年研究大会		
7 県文化振興大会		
8 緑化関係表彰式		
10 栃の葉国体記念「第24回健康マラソン大会」		
10 国民体育大会冬季大会スキー競技会（本県選手団を秋田県に派遣）（13日まで）		
11 森林ボランティアによる「森づくり」の集い		
13 ミルクの国牛乳講演会		
16 とちぎ花フェスタ in 高根沢（18日まで）		
3 月	6 「とちぎ米」の香港への輸出出発式	
	9 旧議会議事堂の議場閉場式	
	10 米国インディアナ州への高校生派遣（20日まで）	
	13 北関東自動車道愛称決定！「北関」	
	15 農業大学校卒業式	
	18 一般国道294号稲沢拡幅が全線開通	
	4 月	1 県立南那須養護学校高等部開設
1 民間住宅耐震診断助成事業		
1 農産物知的財産センター開設		
1 とちぎ企業・観光誘致センター開所（東京事務所）		
2 世界女子アイスホッケー選手権大会本県開催（8日まで）		

1 月	11 農業大学校入学式
	13 春季苗木配布会
	21 「やすらぎの栃木路」フェアinインディ 2007（茂木町22日まで）
5 月	1 自動車税のコンビニエンスストア収納開始
	10 春の交通安全運動「オープニングセレモニー」
	12 県看護大会
	16 とちぎ若者サポートステーション開所
6 月	18 とちぎ地産地消県民運動実行委員会
	19 県植樹祭・とちぎグリーンフェア（さくら市）
	21 市町村長会議
	21 セカンドライフビジネス支援センター開所
7 月	27 とちぎの環境美化県民運動県・市町連携行動（栃木市）
	1 不法投棄パトロール出発式
	2 あなたも森の番人に！～自然にやさしい「狩猟」講座～
	4 本県関係国会議員と知事とが懇談
	9 県民の日記念行事（10日まで）
8 月	14 香港国際旅遊交易会（ITE2007）出展（香港17日まで）
	15 県民の日記念式典
	24 男女共同参画社会を考える「とちぎ県民のつどい」
	29 とちぎ特使 茂木町を視察後、知事と懇談
	4 「やすらぎの栃木路」大阪キャンペーン（5日まで）
	4 とちぎ企業立地セミナー（大阪府）
	6 交通安全子供自転車大会
9 米国インディアナ州高校生受入（13日まで）	
9 月	10 県芸術祭（11月23日まで）
	20 「やすらぎの栃木路」横浜キャンペーン（22日まで）
	24 ふれあい活動高校生のつどい
	26 献血功労者表彰式
10 月	31 とちぎ食育推進連絡会設立
	1 愛鳥週間用ポスター原画コンクール表彰式
	4 フレッシュファーマーズフェスティバル2007（5日まで）
11 月	4 日・韓・中環境創造型稲作技術国際会議（6日まで）

